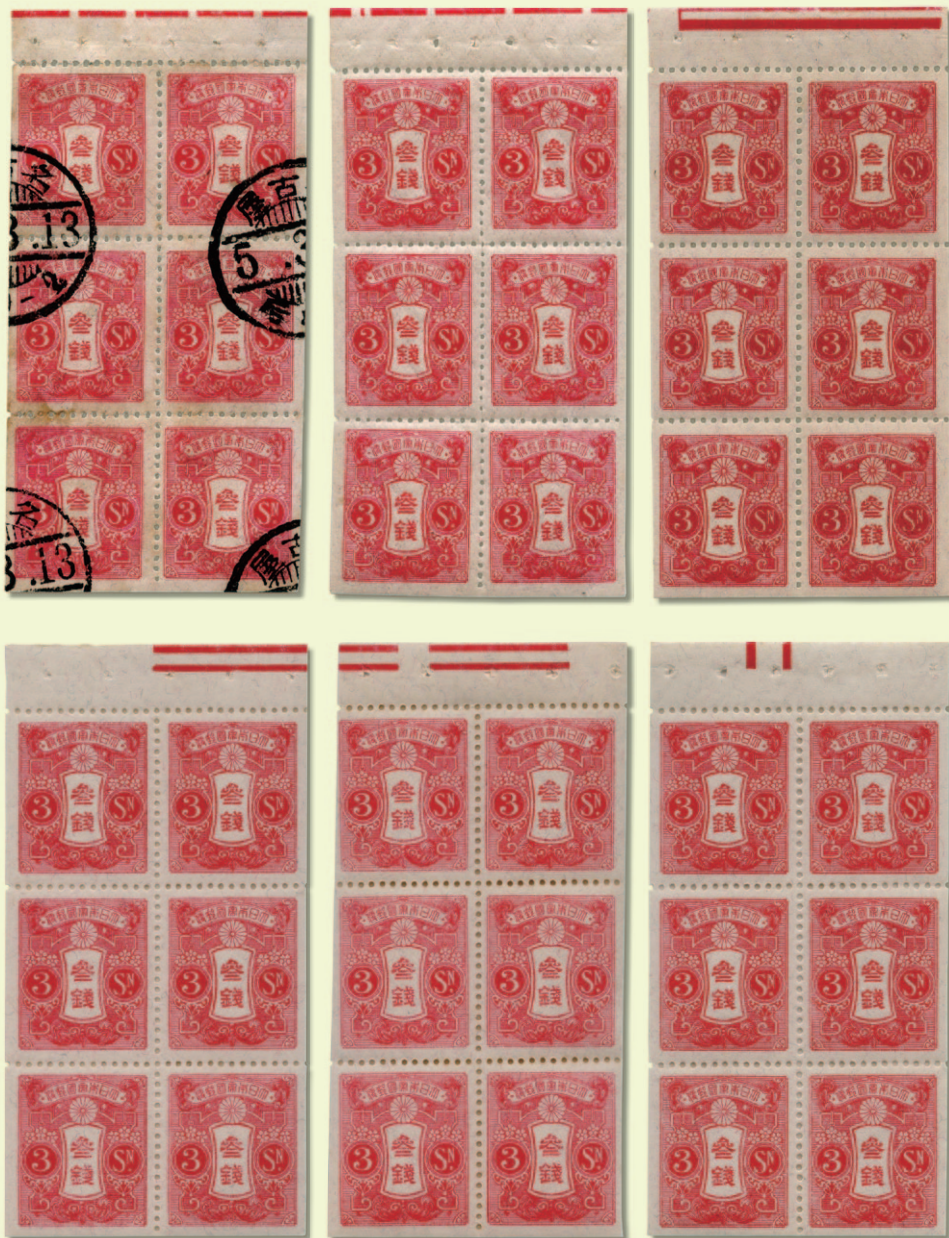


郵趣研究

The Philatelic Studies




新大正毛紙切手3銭切手帳ペンの珍しい枠線。いずれも確認1～数点。
上段3ペーンの色調は、bright rose-red、下段3ペーンの色調は、rose-red [90%縮小]
「新大正毛紙切手の切手帳ペンの分類(下)」より[本文8ページ]

タカハシ スタンプ オークション

タカハシスタンプオークション
第 631 回

開催会場 2019年4月21日(日)14時 東京都中央区銀座7-5-19 銀座龍櫻閣4F
郵便入札 2019年4月20日(土)10時開始
開 閉 郵社事務所 開場時間 月～金 11時～17時 土 11時～16時 祝休



株式会社タカハシスタンプ商会
〒100-8692 日本郵便局私書箱949号
事務所 千104-0061 東京都中央区銀座7-5-19 銀座龍櫻閣7F
TEL. 03-3573-5370 FAX 03-3572-0661
URL <http://www.takahashistamp.com>

Takahashi Stamp Co.
P.O.Box 949, Ginza Post Office
Japan Post Co., Ltd.
100-8692, JAPAN

タカハシスタンプオークション
第 632 回

開催会場 2019年5月18日(日)14時 東京都中央区銀座7-5-19 銀座龍櫻閣4F
郵便入札 2019年5月18日(日)10時開始
開 閉 郵社事務所 開場時間 月～金 11時～17時 土 11時～16時 祝休



株式会社タカハシスタンプ商会
〒100-8692 日本郵便局私書箱949号
事務所 千104-0061 東京都中央区銀座7-5-19 銀座龍櫻閣7F
TEL. 03-3573-5370 FAX 03-3572-0661
URL <http://www.takahashistamp.com>

Takahashi Stamp Co.
P.O.Box 949, Ginza Post Office
Japan Post Co., Ltd.
100-8692, JAPAN

オークション見本誌は四百円(切手可)。
糊無し(不可)でお送り致します。
途中入会も承っております。お問い合わせ
わしてください。
ホームページに即売リストもございま
す。ぜひご覧ください。

(株)タカハシスタンプ商会



〒100-8692 銀座郵便局私書箱949号 事務所: 東京都中央区銀座7-5-19 銀座龍櫻閣7階
TEL.03-3573-5370・FAX.03-3572-0661・郵便振替00170-0-78962・<http://www.takahashistamp.com>

JAPAN STAMP AUCTIONS

フロア	メール	フロアセール	メールセール	オークション誌発送	東京下見会	ご出品締切
第108回	第95回	8月24日(土)～25日(日)	8月27日(火)	8月8日(木)	8月18日(日)	6月22日(土)
第109回	—	11月17日(日) JAPEX 特別セール		10月18日(金)	11月16日(土)～17日(日)	9月7日(土)
第110回	第96回	12月7日(土)～8日(日)	12月10日(火)	11月13日(水)	11月16日(土)～17日(日)	9月28日(土)
第111回	第97回	2020年2月29日(土)～3月1日(日)	3月3日(火)	2月6日(木)	2月16日(日)	12月21日(土)
第112回	第98回	5月30日(土)～31日(日)	6月2日(火)	5月8日(金)	5月24日(日)予定	受け付け停止
第113回	第99回	8月29日(土)～30日(日)	9月1日(火)	8月6日(木)	8月23日(日)予定	6月20日(土)

第112回フロアオークション・第98回メールオークションのご出品受け付けは停止いたします

ご出品案内

ご出品は、上記期日必着でお送り下さい。1点3,000円程度以上の日本関連品限定。
第109回フロアオークションのJAPEX特別セールに限り、1点10,000円以上の品限定です。
定形以外の郵便物は私書箱ではなく事務所へお送りください。
弊社の判断で、掲載基準に達しないものはお返ししております。記事の編集は当方でいたしますので、詳細リストは不要です。また現在、多数のご出品物をお預かりしており、編集能力の限界を超えております。大量出品等の場合、数回にわたっての掲載になる場合もございます。

年会費	年会費は1年間で2,000円(1月～12月まで)	7月・8月にお申し込みの場合	800円	で年末迄
	6月にお申し込みの場合	1,200円	で年末迄	9月～12月にお申し込みの場合 2,400円

★ <http://www.japan-stamp.com> ★ E-mail: japan-stamp@juno.ocn.ne.jp

ジャパン・スタンプ商会
【営業時間】火～土 10時～18時(日・祝・月休業)
Tel.06-6347-1601 Fax.06-6347-1602

通信先 → 〒530-8691 大阪北郵便局 私書箱89号
オフィス 〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3-1400
店頭販売はしていません 大阪駅前第3ビル14階1号
ゆうちょ銀行振替口座: 00980-3-51454 取引銀行: 池田泉州銀行 石橋支店 当座 #85749

新連載 青島局と山東鉄道沿線局の郵便印 (1898年～1949年) 1	福田 真三	2
A Study of Postmarks of Qingdao and the Shandong Railway Zone for 1898-1949 (1)	SHINZO Fukuda	
新大正毛紙切手の切手帳ペンの分類 (下)	長竹 一彦	8
Classification of Booklet Panes, Taisho Wmkd. Granite Paper, New Die (2)	NAGATAKE Kazuhiko	
桜連合 4 銭支那字入葉書の加刷文字位置違い	杉原 正樹	16
Two types of overprint position Cherry blossom 4sen U.P.U. Postal Cards Overprinted "China"	SUGIHARA Masaki	
考古学絵葉書の歴史とその使用方法について	平田 健	18
A Brief History of the Archaeological Picture Postcards and Their way of the Usage	HIRATA Takashi	
航空書簡発行 70 周年記念 38 円航空書簡の分類と使用例	魚木 五夫	20
Classification and Usages of 38yen Air-Letter, 1949	UWOKI Itsuwo	
フレーム切手のマイクロ文字	内田 雄二	24
Variety of Micro character on Frame Stamps	UCHIDA Yuji	
はじめての解説書 郵趣モノグラフ 28 戦後ステーションナリーは使用済が面白い	天野 安治	28
Introduction of New Monograph "Collector's Guide to Japan Postal Stationeries 1946-1981"	AMANO Yasuharu	
JPSオークション・プレビュー (60) 2019年7月6日 (土) 第522回より	山口 充	31
JPS Auction Preview (60)	YAMAGUCHI Mitsuru	

☆年間購読料 (6回、税込)

紙版…4,200円 (送料込) WEB版…3,600円

紙版+WEB版…7,000円 (送料込)

☆本誌+JPSオークションカタログ年間購読料 (6回、税・送料込)

本誌紙版+カタログ…6,200円 (維持・正会員 5,800円)

本誌WEB版+カタログ…5,600円 (維持・正会員 5,200円)

郵便振替で、開始希望号を明記してお申し込みください。

[郵便振替] 口座番号: 00160-6-3700

加入者名: 公益財団法人 日本郵趣協会

郵趣研究編集

ワーキンググループ

座長 山口 充

委員 飯塚 博正

板橋 祐己

榎沢 祐一

中世古 誠

山田 廉一

*

編集 最上 邦昭

表紙デザイン 三浦 久美子

郵趣研究 第148号 (2019-3)

2019年6月20日発行

年6回、偶数月の20日発行

定価1,000円 (本体価926円)

発行 公益財団法人 日本郵趣協会

〒171-0031 東京都豊島区目白1-4-23

TEL 03-5951-3311

FAX 03-5951-3315

制作 株式会社 日本郵趣出版

〒171-0031 東京都豊島区目白1-4-23

TEL 03-5951-3416

FAX 03-5951-3327

E-mail: jpp@yushu.or.jp

公益財団法人 日本郵趣協会

©2019 禁無断転載

◆「郵趣研究」投稿ガイドライン◆

～本誌では皆さまの投稿をお待ちしております～

1. ページ数と文字数 偶数 (2, 4, 6) ページを原則とします。ページあたりの文字数 (文字のみ) は以下の通りです。

1 ページ目: 1行48字×35行=1,680字

2 ページ目以降: 48字×42行=2,016字

2. 原稿作成用テンプレートファイルの使用 原稿作成は専用の「ワードテンプレートファイル」をご使用いただきます。

3. 図版・表・キャプション原稿 図版は必ず解像度350dpi以上のJPEG画像をご使用ください。表は、ワードの表で作成してテキストボックスで挿入してください。図版・表のキャ

プション原稿は、図版・表の近くに記載してください。

4. 引用・参考文献・年号表記 他の出版物からの引用: 所有者の承諾を得た後、必ず出典を明示ください。参考文献の明示: 記事の末尾にご記載ください。

5. 原稿送付 原稿 (ワード) は、編集部までEメールで添付ファイルにてお送りください。

6. 投稿原稿掲載 投稿原稿は、郵趣研究編集ワーキンググループで検討の上、掲載を決定します。編集の都合上、表記の統一や記述内容の変更について調整する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

7. その他 掲載に際し、掲載誌を進呈させていただきます。

【原稿作成用テンプレートファイルのご請求・お問合せ先】

〒171-0031 豊島区目白1-4-23 切手の博物館 4階

株式会社日本郵趣出版「郵趣研究」係

電話: 03-5951-3316 (直) / FAX: 03-5951-3327

受付時間: 10:00～18:00 (日・月・祝日を除く)

Eメール: jpp@yushu.or.jp [係: 最上]



WEB版 郵趣研究

サンプル版、お申し込み!

スマートフォンで左のQRコードを読み込んでいただくと、WEB版郵趣研究サンプル版とご購読お申し込みをご案内します。

※本誌の一部あるいは全部の複写複製に関して、購読者様ご自身のみのご利用以外の、第三者への配布 (有料・無料を問わず) や投稿記事・リーフ作品に使用する等の場合、著作権者及び発行所の許諾を得るか、引用事項の出典を明記することが必要となります。編集部までご連絡ください。

青島局と山東鉄道沿線局の郵便印(1898年～1949年) 1

福田 真三

JAPEX2018に「青島局と山東鉄道沿線局の郵便印」と題して出品しました。今回その作品について執筆の機会を得ましたので説明します。特に、郵便印の使用期間について調査をしましたが、限られた情報の中でのことで、広く購読者の皆様に情報の提供を頂ければと思います。

本作品の時代について概括します。

中国の山東半島南岸は、1898年のドイツによる「青島・膠州湾」租借と「山東鉄道」の敷設、1914年の日独戦争に勝利した日本への租借地移管と山東鉄道沿線の権益移譲、さらに、1922年の日中間の山東還付条約による同地域の中華民国への返還と権益移管などが行われました。その後、南北政府の対立、済南事変、日中戦争となり、戦後は国共内戦が続き、1949年中華人民共和国が建国されました。下図に青島局と山東鉄道沿線局を示しました。



図 青島局と山東鉄道沿線の主要局

この地域は、租借時代には各国の統治政策に基づき郵便事業が実施され、郵便インフラが構築、移管されました。本稿では、青島局と山東鉄道沿線局の郵便印の変遷を、各国の郵政、使用期間、表示方法等を踏まえ、租借の時代区分に沿って郵便印をまとめました。

採り上げた期間は、ドイツ租借時代の1898年から日本の租借時代を経て、1949年の中華人民共和国建国までとしました。誌面の関係で、下記の通りに分けて執筆します。

第1部 中国の郵政(ドイツ・日本の租借時代)

第2部 ドイツ租借時代

第3部 日本租借時代

第4部 中国の時代(日本軍撤退から日中戦争まで)

第5部 中国の時代(日中戦争以後)

第1部 中国の郵政(ドイツ・日本の租借時代)

ドイツ租借時代の中国は大清郵政の形成期で郵便印は不統一印が主流でしたが、徐々に統一印になった時期でした。各局で様々な郵便印が使われ、興味深いものとなっています。1911年の辛亥革命で中華民国が建国されると、大清郵政の郵便印が継続され使われましたが、年号表示が民国年号に変更されました。この時代の郵便印は①大清郵政の時代：郵便印の変遷(不統一印から統一印)、②大清郵政から中華郵政に：中華民国の郵便印、に分けて説明します。

1. 大清郵政の時代

大清郵政の時代にこの地域で使われた郵便印を次ページ表に整理しました。確認期間が中国の他の地域(全域)と若干差異があるので、中国全域の確認されている使用期間を併記しました。また、印類の年月日の交換部についての資料は確認できませんでしたが、年月日の順序に相違がある使用があり、日本の印類などを参考にしました。

郵便印の使用期間は、下記の文献に発表されています。これらに、発表されている記事、オークション誌などを参考にまとめました。他地域で使われた郵便印の最初期、最後期の使用については()内に確認した郵便局名を記入しました。

- 『清代郵戳志』孫君毅、中国集郵出版社、1984年
- 『中国郵戳目録(1)～(10)』張愷升、1989年～1995年
- 『中国郵資考證(1)～(3)』張愷升、1998年

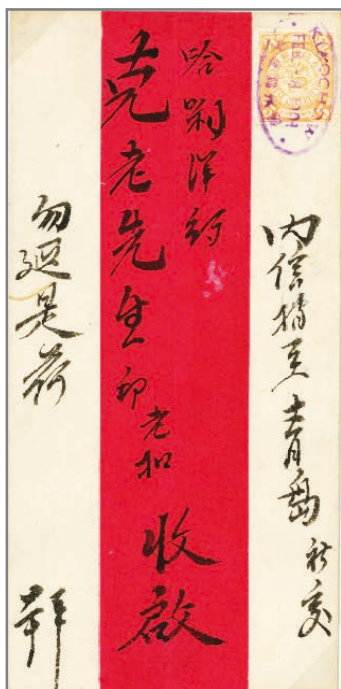
表 大清郵政・中華郵政時代の郵便印(ドイツ租借時代)

郵政	タイプ 直径	印影	年・月・日 交換部	表示 呼称	大清郵政	中華郵政	
					'02 光緒28	'04 30	'06 32
大清郵政	楕円印 横 36mm~38mm 縦 20.5mm~24mm		SEP 19-1901	西曆 英中文	使用期間(膠州)'99.6.28~'04.4.14. 中国全域 1899.4.~1904.11.		
	日月印 34mm		二八廿 日六廿	上:局名 下:郵政局 光緒年号	使用期間 光緒28.2.7.~光緒29.8.14. '02.3.16.~'03.10.4.		
	丸一型印 25mm~26.5mm		30 OCT 03	西曆 中英文	使用期間(膠州)'02.3.7.~'16.10.1. 中国全域 1899.5.~1917.12.		
	丸二型印(二重) 23mm~23.5mm		四日 三月 甲辰	上:省名、下:局名 干支年号 中文	使用期間'04.3.28(膠州)~'09.12.22(即墨) 中国全域 1904.3.23.(上海)~1913.9.23.(江西)		
	丸二箱型印 27mm~28mm		二十 七月 丙午	上:省名、下:局名 干支年号 中文(省名)	使用期間'06.7.28(濟南)~'11.1.24(夏邱) 中国全域 1906.7.11.(江蘇鎮江)~1912.12.12.(江蘇xx)		
		初二 正月 丁未	干支年号 中英文	使用期間'07.2.14(濟南)~'07.11.26(濟南) 中国全域 1907.1.21.(西安)~1912.1.4.(鼓浪嶼)			
中華郵政	丸二箱型印 27mm~28mm		初六 八月 辛亥	干支年号 英中文	使用期間'10.8.1.(高密)~'11.9.27(坊子) 中国全域 1907.12.17(北京子)~1912.8.11(奉天丑)		
			初八 冬月 元年	民国年号 英中文	使用期間'12.11.8.(高密)~'27.9.30(濟南) 中国全域 1912.~1949.8.10.		

(凡例) 山東地域 中国全域

次に各郵便印について紹介します。

楕円印



左は、膠州局で使われた1901年2月8日の楕円印でインクが紫、サイズは横38mm×縦20.5mmです。よく見ると、日の“8”は天地逆使用です。本来は“一”が年側です。これから“年月日”表示がはめ込み式であることがわかります。



右も膠州局で使われた1901年9月19日の楕円印ですが、インクは灰色でサイズが横38mm×縦22mmと若干縦が大きくなっています。枠線も二重線です。このほかにも一重線のものも使われました。



次に、濰縣、青州(下左)と済南(下右)で使われた楕円印を示します。



濰縣局、青州局の楕円印



済南局の楕円印



1903年5月18日

濰縣

サイズ:横36mm×縦21mm



1903年5月19日

青州

サイズ:横38mm×縦24mm



1903年8月9日

済南

サイズ:横36mm×縦20.5mm

濰縣、青州では共に緑色のインクですがサイズが異なります。右の済南の楕円印のインクは紺色が使われ、CHINANは済南の初期の表示です。月と日の順序が間違っており、年月日が差し込みであることがわかります。

特小型印

上右の葉書は済南の西の東昌局に差出され、東昌局で特小型印(直径20mm)が使われました。この郵便印は使用が少なく大清郵政の郵便印一覧表には記載しませんでした。右に印影を示しました。1903年8月6日の使用で、使用期間は、山東省では2例のみの確認で光緒29.6.14.~29.7.17.(西曆)1903.8.6.~1903.9.8.としましたが、中国全域では1902年~1904年の使用を確認しています。



東昌局 特小型印

日月印



1902年4月4日

濰縣

直径 34mm



1902年4月14日

膠州

直径 25mm



1902年4月10日

即墨

直径 34mm



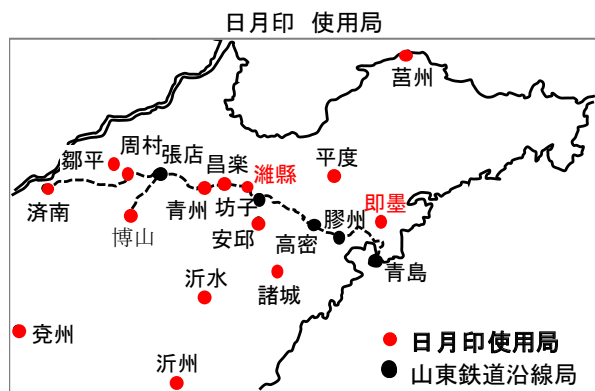
1902年4月5日

膠州

直径 25mm

左は濰縣、即墨で日月印が使われた封書で、上に膠州局の丸一印と併せて日付順に並べました。この郵便印は“太陽:左”と“月:右”が象徴的に描かれています。このような表示の郵便印は稀なものと思います。以下に水原明窓氏が「中国切手論文集」で説明されている“中国山東の日月印”を紹介します。

「日月印は、光緒28年2月7日(濰縣)～光緒29年8月14日(諸城)の短期間に山東半島の一部でのみ使われた。直径約34～36^{mm}、材質は木製、円の上方に局名、下方に郵政局、中央に日付が入る。年月日は陰暦、年号は光緒、すべて漢数字で示される。但し、11月は冬月、12月は腊と略。この印の最大の特徴は、日と月が象徴的に描かれていることである。済南局では、日月の図がない郵便印が使われた。」



使用局を左図に●で示しました。

この「論文集」には、この郵便印の意味について研究がなされているが未だに未解明と記載されています。李東園老は、「日と月を合せると明になるから、「反清復明」(清朝に反対し明に復帰する意)ではないかと示している。清朝に反対した義和団の乱の発祥の地からこのような話も出たのでしょう。」とも記載されています。非常に興味深い郵便印と思います。

丸一型印

中国全域では1899年から使われ、この地域では1902年3月膠州局の使用が最初期と確認されています。この郵便印は、中華郵政にも引き継がれ、日本租借時代も継続して使われました。済南、膠州の使用が多くみられます。青島局では1919年5月8日から1922年12月30日が確認されている使用期間です。



この葉書には、膠州の丸一型印が押印されています。



印願の構造



日本の丸二型印の印願

膠州丸一型印が押印された葉書

左が印影と年月日の構造です。右は日本の丸二型印の印願の写真です。通信博物館資料センター(行徳)で撮影したものです。最下段が年月日で3分割になっています。これを参考に中国丸一型印の構造を推定しました。



済南の丸一型印です。初期の使用でアルファベットが楕円印と同じ“CHINAN”となっています。その後、“TSINAN”に変更されます。

二重丸二型印



印類の構造

丸二型印には枠線が“一重線”と“二重線”の2種類があります。この地域で使用された丸二型印は“二重線”のみが確認されています。直径が23mmと小型です。この印の月は、日月印と同様に、11月は冬月、12月は腊と略してあります。上左に、高密局と済南局の押印を示しました。右に印類の構造を示しました。次の丸二箱型印も中央の年月日のはめ込み式です。

丸二箱型印

丸二型印の表示には ①山東(省名表示)、② 中英文表示、③ 英中文表示 のバリエーションがあります。既に説明した丸一型印と丸二箱型印 ③ 英中文表示 が統一印となり、中華郵政に引き継がれます。



① 山東(省名表示)

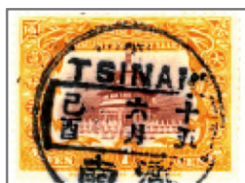
最初に使われた丸二箱型印の表示は、上に省名表示、下が地名の表示でした。直径は27.5mm、中央の箱の部分の両側の線が太いもの、細いもの、箱の四角形が角ばったもの、丸みのあるものなどがあります。

最初期の使用は1906年7月28日の済南です。中国全域の使用も上海の同じ時期です。

② 中英文表示

1907年2月に済南で中英文の丸二箱型印が現れています。英文の済南のアルファベットが“TSINAN”となっています。

郵便印の直径は、① の27.5mmと同じです。



③ 英中文表示

丸二箱型印の表示が上:英文、下:中文の英中文になりました。左が膠州、右が済南の郵便印です。

済南の年月日が右から左になっています。この表示は他地域でも確認されています。郵便印の直径が27mmとなっています。

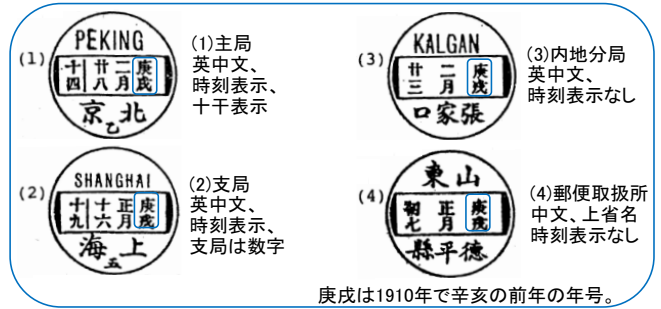


2. 中華郵政

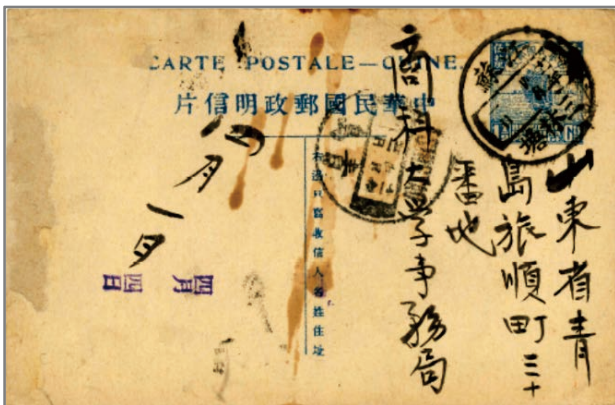
1911年の辛亥革命で清朝から中華民国が樹立され、1912年が民国元年となりました。郵便印の元号表示が民国年号に変更されました。丸一型印は西暦表示のため、同じものが使われました。丸二箱型印は、管理局、一等局から三等局、郵便取扱所で表示が異なりました。

右図に大清郵政の郵便印の表示区分を示します。この表示が中華郵政にも引き継がれましたが、中華郵政では次の表示の郵便印となりました。

1. 管理局、一等局 : 英中文、時刻表示、十干表示
2. 支局 : 英中文、時刻表示、支局番号
3. 二等局 : 英中文、時刻表示
4. 三等局 : 英中文、時刻表示なし
5. 郵便取扱所 : 中文、時刻表示なし



上は民国2年(1913)の濰縣局の使用です。濰縣は三等局で丸二箱型印、時刻表示なし、直径27mmの郵便印が使われました。中央の年月日に空欄があり、時刻表示を削除したと思われます。



左の葉書は日本租借時代後期に上海郊外の三林塘(郵便取扱所)差出し青島宛です。郵便印の直径が30mmとなっています。

青島局は、ドイツ租借開始時期は未だなく、即墨局、膠州局が集配を行っていました。ところが、ドイツ、日本の租借時代を経て、山東鉄道沿線では済南に次ぐ郵便局になりました。民国11(1922)年12月

10日に日本から中国に郵便業務が引き継がれた時には、青島市内には4支局がありました。

(以上)

新大正毛紙切手の切手帳ページの分類(下)

長竹 一彦

後半は、新大正毛紙切手3銭切手帳の分類と今後の課題などです。

●3銭切手帳ページの分類

1. アラビアゴムのり bright rose-red とじ穴間隔約 6.5mm



図1 a=8.3mm



図2 a=9.2mm
(山田祐司氏蔵)



「a」は、印面上辺から
枠線下辺までの距離
を表す。

2. デキストリンのり bright rose-red とじ穴間隔約 6.5mm



図3 白耳



図4 a=9.0mm



図5 a=7.5mm(山田祐司氏蔵)
枠線の太さ 1.6mm

4. デキストリンのり rose-red とじ穴間隔約 6.5mm



図6 白耳



図7 a=6.5mm 枠線の太さ 1.4mm



図8 白耳

3. デキストリンのり bright rose-red とじ穴間隔約 8.5mm

5. デキストリンのり rose-red とじ穴間隔約 8.5mm

5. デキストリンのり rose-red とじ穴間隔約 8.5mm (つづき)



図9 a=6.9mm
枠線の太さ 1.1mm



図10 a=9.1mm
枠線の太さ 1.0mm



図11 a=9.3mm
枠線の太さ 1.4mm



図12 白耳



図13 a=7.2mm
枠線の太さ 1.0mm



図14 a=7.1mm
枠線の太さ 1.0mm
(図13と同一実用版?)



図15 a=6.8mm
枠線の太さ 1.4mm



図16 a=7.0mm
枠線の太さ 1.2mm



図17 a=7.3mm
枠線の太さ 1.6mm



図18 a=6.5mm
枠線の太さ 1.1mm



図19 a=6.8mm
枠線の太さ 1.3mm
(図15と同一実用版?)



図20 a=6.6mm
枠線の太さ 1.4mm

5. デキストリンのり rose-red とじ穴間隔約 8.5mm (つづき)



図21 a=6.6mm
枠線の太さ 1.7mm



図22 a=6.6mm
枠線の太さ 1.6mm



図23 a=6.9mm
枠線の太さ 1.5mm



図24 a=8.0mm
枠線の太さ 1.5mm



図25 a=6.3mm
枠線の太さ 1.6mm



図26 a=7.7mm



図27 a=5.6mm
枠線の太さ 1.9mm



図28 a=7.8mm
枠線の太さ 1.8mm



図29 a=8.5mm
枠線の太さ 1.8mm

●新大正毛紙切手3銭切手帳ペンの分類表

表1 3銭切手帳ペン アラビアゴムのりの切手帳ペンの分類

分類番号	のり	とじ穴間隔	印面 色調	枠線			図版番号	備考	
				枠線本数	形状	印面 下部までの距離 a mm			枠線の太さ mm
1	アラビア ゴムのり	6 ・ 5	bright rose-red	0	白耳	8.3	—	図1	山田祐司氏蔵
2				1	1本破線	9.2	—	図2	

表2 3銭切手帳ペーン デキストリンのりの切手帳ペーンの種類

分類 番号	のり	とじ 穴 間 隔	印面		枠線			図 版 番 号	備 考	
			色 調	枠 線 本 数	形 状	印 面 下 部 ま で の 距 離 a mm	枠 線 の 太 さ mm			
3	デ キ ス ト リ ン の り	6.	bright	0	白耳			図3		
4		5		1	1本破線	9.0	—	図4	枠線に8.5mmの切れあり	
5		8.	rose-red	0	白耳					
6		5		2	2本線	7.5	1.6	図5	山田祐司氏蔵	
7		6.		0	白耳			図6	とじ穴間隔6.5, 7.0, 6.4, 6.4, 6.4mm	
8		5		3	3本線	6.5	1.4	図7	とじ穴間隔6.0, 6.5, 6.2, 6.4, 6.2mm	
9		約 8 ・ 5 ミ リ		rose-red	0	白耳			図8	
10					1	1本線	6.9	1.1	図9	
							9.1	1.0	図10	
							9.3	1.4	図11	
11					2	2本線	7.2	1.0	図13	
							2本破線	7.1	1.0	図14
12					2	2本線	6.8	1.4	図15	
							7.0	1.2	図16	
							7.3	1.6	図17	
13					3	3本線	6.5	1.1	図18	
		6.8	1.3	図19			"図15"と同一版?			
14		2	2本破線	6.6	1.4	図20				
	7.2			1.5						
15	2	2本破線	6.6	1.7	図21					
			6.6	1.6	図22					
			6.9	1.5	図23					
			7.0	1.6						
			7.2	1.5						
8.0	1.5	図24								
16	3	3本破線	6.3	1.6	図25					
17	0	縦2本線	7.7		図26	縦線の太さは、1.4mmと1.3mm				
18	1	かすみ	5.6	1.9	図27					
			7.8	1.8	図28					
			8.5	1.8	図29					

●3銭切手帳ペンの分類について

3銭切手帳ペンの分類要素は、4つある。まず、のりは3銭も「アラビアゴムのり」と「デキストリンのり」に分類され、「アラビアゴムのり」が初期であり、製造時期の順序が逆転することはない。3銭では、「アラビアゴムのり」のものは非常に少なく、大部分は「デキストリンのり」のものである。

次に、とじ穴間隔は、「約6.5mm」のもの、「約8.5mm」のものがある。「約6.5mm」のものが初期である。「約6.5mm」のものは3銭ではかなり少ない。3銭も穴と穴との間隔は一樣なものもあるが、ばらついていることが普通である。製造時期は、基本的には「約6.5mm」から「約8.5mm」へ変遷している。しかし、3銭では、本来「約6.5mm」のものが製造されていると考えられる時期に「約8.5mm」のものが出現したり、その逆の例も見つかったりしている。

色調は、「bright rose-red」から「rose-red」へ変わった。「bright rose-red」は、かなり少ない。「rose-red」は色調に幅があり、「bright rose-red」を薄くしたような赤味の強いものも少数あるが、大部分は朱色の入った赤色である。色調に関しては、今のところ例外と考えられるものは見つかっていない。

3銭の「白耳」は、「アラビアゴムのり」にとじ穴間隔「約8.5mm」が見つかっていないため5種に分類される。

枠線は、初期のものは、1銭5厘同様、枠線に切れの入ったものが用いられた。bright rose-redの色調を持つ切手帳ペンの枠線は、全て珍しい。rose-redの枠線は、途中で切れのない2本線、3本線、かすみ罫が主流である。1本線のものは比較的少なく、その他の枠線も少ないが時々見かける。ただ、2種類だけは珍品に属すると思われる。3銭も枠線の試行錯誤が行われたと考えられる。

1. アラビアゴムのり bright rose-red とじ穴間隔約 6.5mm (図版:8ページ)

アラビアゴムのりのものは、3銭では稀品である。未使用は、**図2**の山田氏所有のものと山口充氏所有の白耳のもの2点しか確認されていない。

また、枠線も**図1**、**図2**に見られるような3銭独自の形状で、版と紙が圧着する際の空気の抜け道として入れられた切れのあるタイプのもの1種類だけである。短線の長さはまちまちで規則性は見られない。おそらく、実用版毎に枠線への切れの入れ方も異なると考えられるので、枠線のリコンストラクションも可能と思われる。しかし、確認しているのがこの2点だけなので現時点ではどうにもならない。

アラビアゴムのりの3銭切手帳ペンのとじ穴間隔は、「約6.5mm」のものしか見つかっていない。

2. デキストリンのり bright rose-red とじ穴間隔約 6.5mm (図版:8ページ)

bright rose-redの色調でも、このタイプのものになると少しは見かけるようになる。しかし、白耳(**図3**)でも少ないことには変わりはない。枠線は、1銭5厘にも見られるような「枠線に切れがあるもの」(**図4**)の1種類だけが確認されている。

3. デキストリンのり bright rose-red とじ穴間隔約 8.5mm (図版:8ページ)

このタイプのものは、例外的なものだと考えられる。未使用では、**図5**のもの1点だけが確認されている。白耳も当然あるはずであるが、筆者は確認していない。

色調がbright rose-redであること、枠線が**図30**のような旧毛3銭切手帳C型ペンのものに似ていることから、新毛3銭切手帳の初期のものだと推測している。

おそらく、「2」タイプの製造期間中に偶発的



図30 旧大正毛紙切手3銭切手帳C型ペーン枠線入りと図5の新大正毛紙切手3銭切手帳ペーン

に「とじ穴間隔約8.5mm」のものでできてしまったと思われる。このタイプの枠線は今のところ1種類であるが、「1」タイプや「2」タイプの枠線のものが見つかるかもしれない。また、逆に「3」タイプの枠線が、「1」タイプや「2」タイプに見つかる可能性もある。

4. デキストリンのり rose-red とじ穴間隔約 6.5mm (図版:8 ページ)

このタイプのもも、例外的なものだと考えられる。おそらく、次の「5」タイプの製造期間中に偶発的に「とじ穴間隔約6.5mm」のものでできてしまったと思われる。ただ、存在数は多くはないが、「3」タイプのような珍品となるようなことはないと推測している。

今のところ白耳(図6)も見つかり、枠線は図7の3本線のもの1種類であるが、今後別の種類の枠線も見つかる可能性は大いにあると推測している。

5. デキストリンのり rose-red とじ穴間隔約 8.5mm (図版:8~10ページ)

3銭切手帳ペーンで、最も存在量の多いのがこのタイプのものである。このタイプのもものが、3銭切手帳で最も製造期間が長かったものと思われる。そのため、様々な形状の枠線が見つかっている。また、このタイプの製造期間中に枠線の試行錯誤が行われたと推測している。

このタイプには、図12のように「みほん」がある。枠線入りのものにもあるはずだが確認していない。

このタイプで最初に出現した枠線は、図9~図11の1本線のものだと推測している。その理由は、色調にある。色調は、bright rose-red を薄くしたような赤味の強い色で、一般的な rose-red とは異なる。図31にエンタイア上のもものを示す。日付は昭和6年4月で、新毛3銭切手帳の発売が、昭和3年5月2日なので「5」タイプへの切り替えは、かなり早い時期から行われていたことが分かる。3銭の枠線で1本線のものは少ない。

その次の枠線ははっきりしないが、2本線(図15~図17)や3本線(図18~図19)ものは、枠線の本数を変えて、耐刷力がどのくらい変わるかを調べたのだろう。この2種類の枠線と「かすみ罫」が3銭では最もポピュラーな枠線である。

「かすみ罫」(図27~図29)は、前号でも述べたように、切手印面上

辺から枠線までの距離が異なると、耐刷力に影響が出るかどうかを調べたと考えられる。ここでも「かすみ罫」は、シート切手の平面版では用いられなかった太さ1.8~1.9mmの「太かすみ罫」が用いられている。

「枠線の形状の試行錯誤」は、昭和8年3月には既に始まっていたようで、図32は、3銭のそれを行ったと考えられる枠線のもの。また、図33は、1銭5厘の blue の色調のもので、この色調の1銭5厘切手帳ペーンの枠線は、全てそれを行ったと推測される。1銭5厘も3銭も同時期に「枠線の形状の試行錯誤」が行われたことが窺える。

図21~図25の2、3本破線の枠線は、以前はかなり少ないと思い、実用版が違うと思うものはなるべく手に入れるようにしてきた。そのため手元に5種類の実用版からと思われるペーンがある。他にも2種類の異実用版からと思われるものを確認しており、2本線や3本線に比べればかなり少ないが、ある程度の存在量はあるようである。

図20の2本破線も、多くはないが、時々見かける。ここでは、2種類の実用版のものしか示せなかったが、もっと多くの実用版が存在すると考えている。



図31 図9~図11と同じタイプの枠線
a=9.0mm 倉敷
昭和6年4月



図32 図21~図25と同じタイプの枠線
a=6.7mm 枠線の太さ1.6mm
昭和8年3月



図33 1銭5厘 blue
関釜間船内 (第二)
昭和8年3月16日

図13～図14の2本線と2本破線は珍しい。枠線の形は異なるが同一実用版上のものの可能性が高い。「枠線の形状の試行錯誤」のものは、良好な結果が得られなければ、1版限りで試行が終わってしまうので残存数が少ないのだろう。以上の3タイプの枠線が、3銭では形状の試行錯誤を行ったと思われる。

最後に、図26の縦2本の線の入ったものがあるが、これは、枠線ではないので、なぜ、この様なものがあるのか理解に苦しむ。上部のカットされた部分に枠線が入っていたのであろうか。筆者が確認しているのは、この1点だけで、当然実用版1版限りのものだろう。

●「枠線の形状の試行錯誤」の結果について

日本の凸版印刷の切手シートは、大正5年(1916)に「かすみ罫」が採用されて以来、ずっと変わることなく使われ続けてきた。最初は、「無双罫」の失敗の対策用として採用されたと言われている。しかし、新大正毛紙切手の切手帳の「枠線の形状の試行錯誤」を経て、「かすみ罫」は、「最高の枠線」の評価を得て使われ続けることになったと筆者は考えている。その理由を次のように類推している。

まず、版面を保護して製造枚数を多くする耐刷力については、「かすみ罫」より優れた枠線があったと推測している。「かすみ罫」よりは、1本線の方が上であつたろうと思われる。単純に考えれば、2本線、3本線の方が耐刷力は増すであろう。ただ、枠線部分の面積比は、シート全体の印刷部分と比べるとかなり小さいので、耐刷力の差はそれほど大きくなることはなかったのではないかと推測している。

ところで、枠線の本数を増すことは、枠線のインキ付着部の面積が増え、インキの使用量も増えることになる。コストのことを考えると耐刷力とインキ使用量の両方を考える必要がある。「かすみ罫」は、1本線と比べると枠線部分のインキ使用量は数分の1で済んだと考えられる。他の枠線と比べても抜きん出て少ないインキ使用量だったと推測される。それでも、製造コストや他の面から、いくつかの枠線が候補として残っていたかもしれない。

ところが、「かすみ罫」には、他の枠線にはない大きな長所があつた。それは、版面の摩耗などの状態を的確に知るには最上の枠線であつたのではないかと言うことだ。図34左の50銭切手のように、線の細い「かすみ罫」は版面の劣化を的確に知ることができる。太い枠線では、版面の摩耗の状態などをいち早く知ることは難しいだろう。図34の中央と右のものを比べると分かりやすいが、右のもの単独なら劣化が初期の段階では気付くのが難しいだろう。



図34 「かすみ罫」が摩耗したものの(左)と3(2)本線が摩耗したものの(右)

版面の摩耗の状態など分かりやすいことが、他の枠線に比べ突出して優れていたことが「かすみ罫」が選ばれた大きな要因の一つだと考えられる。

また、過去20年間、枠線の役割をしっかりと果たしてきた実績も大きかったにちがいない。

しかし、「かすみ罫」にも欠点はある。それは、加工に最も手間のかかる枠線だったと言うことだ。罫線(枠線)は、罫線素材を特殊なかんを使つて仕上げられる。そのため、新大正毛紙切手の切手帳では、手間のかからない罫線素材そのままを枠線として用いてきたものが、最も多いのも事実である。

新大正毛紙切手の切手帳の「枠線の試行錯誤」を通して、「かすみ罫」は、最も信頼できる「枠線」として、その後も使われ続けられたと筆者は考えている。「かすみ罫」を超える枠線を見つけることはできなかったのだろう。

●今後の課題

新大正毛紙切手の切手帳の枠線の種類に関しては、かなり分かってきたと考えている。ただ、その他のことにつ

いては、これから調べる必要があり、それらについて挙げておきたい。

1. 1 銭 5 厘 blue の使用時期

切手帳の 1 銭 5 厘 blue の使用時期は「枠線の形状の試行錯誤」の時期と重なると思われる。昭和 12 年の使用例は、light blue の使用例ばかりなので、それ以前に試行錯誤は終わっていると推測される。blue がいつ頃からいつ頃まで使用されたのかを調べる必要がある。

2. 定常変種の発見

新大正毛紙切手の切手帳の定常変種は、ほとんど見つかっていない。今後、調べていく必要がある。

3. 新しい枠線の発見

筆者は、この5年で1銭5厘blueの新しい枠線を3種入手している。未だ、未発表のものがあると思っている。

4. 枠線の使用時期の調査

図31や図32(13ページ)のように枠線入りの耳紙の付いた切手帳のエンタィアや使用済は非常に少ない。しかし、データを集積すれば、よく見かける枠線のものについては、使用時期が分かってくるかもしれない。

5. 枠線のリコンストラクション

枠線の形状によっては、下の図35のように枠線のリコンストラクションが可能と思われるものがある。ただ、その様な枠線に限って希少性の高いものが多い。同じ実用版からのものと考えられるものを1組でも2組でも見つけていきたい。



図35 切手帳印刷シート上部の「2本跳び破線」の模様は、裁断する位置によって模様が異なると考えられる。従って、リコンストラクションが可能（架空の枠線位置の合成図版）

●おわりに

今まで調べて分かってきたことを書いてきました。しかし、「今後の課題」に挙げましたように未だ分からないこともたくさんあります。これをたたき台にして、多くの方に協力していただき、データなど報告していただければ幸いです。宜しく願いいたします。

【参考文献】

- 長竹一彦『新大正毛紙切手切手帳ペーンの分類』JPS「菊・田沢切手部会」会報第58号、2015年
- 天野安治『田沢型1銭5厘ハンドブック』（財）日本郵趣協会、1997年
- 天野安治『田沢型3銭ハンドブック』（財）日本郵趣協会、2001年
- 天野安治・古家美和『日本の郵便切手帳』（財）日本郵趣協会、2007年
- 『日本普通切手専門カタログVol.1 戦前編』（公財）日本郵趣協会、2016年
- 印刷学会編『新版・印刷辞典』大蔵省印刷局、1975年

桜連合4銭支那字入葉書の加刷文字位置違い

杉原 正樹

◆ 初めに

無加刷の桜連合4銭単葉は、印刷時期によって用紙が3種に分類できることが以前から一部で知られている。同じ用紙を使っていた支那字入葉書にも、印刷時期によって異なる用紙が使われているほか、加刷文字の位置に違いがあることが判った。桜連合4銭支那字入葉書の用紙の違いは厚さによるもので、分類には比較対象物をマイクロゲージなどを使ったり、手触りで判断したりする必要があるが、加刷文字位置の違いはミリ単位の定規があれば判別できる。また、この加刷文字位置違いによるはがきは、希少性の点でも倍以上の差があり、分類する価値があると考ええる。

◆ 加刷文字位置

加刷文字位置の差異は、印面下部と加刷文字間の距離である。印面下部に印刷されている「支那」文字の「支」第2画上部と印面下部の間隔が2.5mmと2.0mmの二つに分けられる。この間隔は「支」第2画以外にも、「那」第1角や「卩」（おおぞと）の傍上部でも印面とは2.5mmまたは2.0mm間隔になっており、「支那」文字が印面と並行であることを併せて示している。桜連合4銭支那字入葉書で未済ともに残存数の多い⁽¹⁾文字間隔2.5mmのはがきをType I、残存数の少ない文字間隔2.0mmのはがきをType IIとする（図1、2）。用紙の伸縮等によって0.1mm程度の差は生じるが、2.5mmと2.0mm間隔の分類に迷うはがきは存在しないはずである。また、慣れれば目視でも2.5mmと2.0mmの差は十分に判別できる。

単葉の未済50～60枚ほどを調査した限り、文字間隔2.5mmと2.0mmの2種類しか見つからず、未済の市場残存数や当時のはがき需要数から考えて、これ以上、加刷文字間隔が異なるはがきが出現する可能性は低いと考える。なお、活字サイズ（ポイント数）、書体および「支」「那」文字の活字間隔はType I、Type IIともに同じようであり、カタログ記載の通り、明朝活字5ポイント、活字間隔4mmで、タイプの違いに関わらず活字本体と文字間距離に差異はなさそうである。

桜連合4銭支那字入往復葉書は未使用10数枚程度の調査枚数ではあるが、往信面／返信面ともに印面との文字間隔2.5mmのType I以外、筆者は確認できていない。往復はがきに関して、未使用残存数も少なく、使用済報告が皆無に近いことから、1回の印刷で需要数が事足りたと考えられ、加刷文字間隔はType Iのみと考えている。

◆ 支那字加刷文字の印刷

桜連合4銭葉書の印刷は、無加刷、加刷ともにはがき1枚分サイズの原版を増殖させた実用版を12面もしくは16面並べ、枚葉紙印刷機でおこなったものと推定している。加刷文字は切手と異なり、実用版に予め「支那」文字を扶植してはがき印面などと加刷文字を同時に印刷したと考えている（1次実用版に「支那」文字を扶植した2次実用版を作り、それを12～16面増殖して印刷したことも考えられる）。従って、実用版を作り替える際に扶植する「支那」文字の位置が微妙にずれたことが差異の原因になったのではないかと考える。

類似の状況が青分銅1½銭支那字入葉書（単葉）にも見られる。同時期に使用された青分銅1½銭支那字入葉書には、周知のように異種活字の組み合わせによって3種の加刷タイプ（活字タイプ違い）が存在している。その中で未済とも最も残存数の多いType Iには、複数以上の「支」「那」文字間隔の距離違いが報告されている⁽²⁾。青分銅1½銭支那字入葉書は、桜連合4銭支那字入葉書と比べ残存数の桁が2つは違い、印刷回

図1、2 印面下部と「支」第2画上部の間隔（文字間隔）の差異

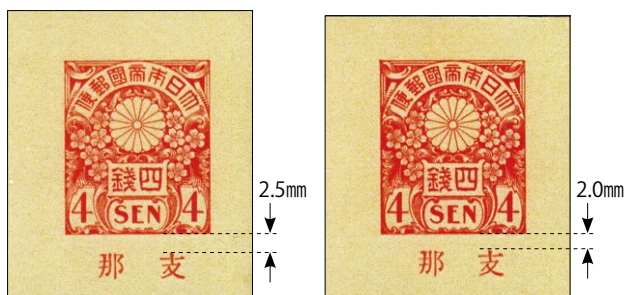


図1 文字間隔2.5mm
Type I (残存数多い)

図2 文字間隔2.0mm
Type II (残存数少ない)

数も実用版への「支那」文字扶植作業数も遙かに多かったことが、青分銅 1 1/2 銭に複数以上の文字間隔バラエティを生んだと考えられる。

◆ Type I、Type II の使用時期と印刷時期

桜連合 4 銭支那字入葉書の初期使用は、淡墨連合 4 銭支那字入葉書が売れ残っていたため比較的遅く、筆者が確認した範囲では第一次大戦勃発 1 年後の 1915 年 5 月、画像のあるデータでは同年 6 月の上海局、次いで 8 月の青島野戦局が初期使用といえる。初期使用と考えられる上海、青島抹消の 2 点はいずれも Type II である。Type I は 1915 年 8 月の青島野戦局が初期データである。Type II の出現が 2 ヶ月だけ早い、青島野戦局ではこの時期 (1915 年 8 月) に Type I と II を同時使用している。しかし、データ集積できた 1915 年 8 月の青島野戦局抹消例は、Type II が 1 点ある他は残りが全て Type I であり、同年中の Type II 使用例としても青島ではこの 1 点だけである。データが少ないため、Type II は上海からの持ち込み使用の可能性も排除できない。

Type II の使用例は、中間データとして上海、青島 (欧文印)、福州などで 6 例を確認している。一方、1922 年の末期使用 (葉書料金 8 銭時期) として上海、青島などで 3 点を確認している。2019 年 4 月時点で Type II の使用済は合わせて 10 点程確認している。

文字間隔 2.5mm の Type I は、1922 年まで青島、上海、天津、漢口、北京、済南など確認局は 10 局に満たないものの、各地で連続した使用例が見出される (とくに青島での使用は“集中使用”と言えるほど多い)。多くの Type I 使用済に交じって 10 点程の Type II が複数局で散発的に使用された合理的理由は思いつかない。

これまでの出現数から判断する限り、Type II の使用済と Type I の割合は、1 : 4 ~ 5 程度と考えられる。未使用での希少性差は、1922 年の Type II 使用例が 3 点あることから鑑み、閉局時の収集目的の買い置き行動も考えられることから Type II と I との差は 1 : 3 ~ 4 程度と考える。

Type I と II の印刷時期順序も、初期データの少なさと遅さから確定できていない。薄弱な根拠ではあるが、往復はがきの全てが Type I であることから、Type I が初めに印刷されたと考えている。ただ、Type I と II の現状での初期使用の差は数ヶ月ほどであり、後述する用紙と Type I、II の関係性から、ほぼ同時期に印刷され、Type I、II の単葉がたまたま、青島局に配給された可能性も否定できない。

◆ 用紙分類との組合せ

桜連合 4 銭支那字入には 2 種類の用紙が使われた。桜連合 4 銭の用紙は無加刷・加刷ともに共通であり、両者間で厚さや表面状態など用紙差異は見受けられない。やや専門的な分類になるが、用紙の違いと加刷文字位置違い (Type I、II) の組合せも併せて記載する (表)。桜連合 4 銭は、印刷時期によって無加刷で 3 種、加刷では 2 種の用紙に分類できる。第一次大戦末期に出現した無加刷の最後期厚手用紙を除き、初期印刷にみられる厚さ 210 ~ 220 μ m 程度の「初期厚手用紙」(黒色「見本」加刷が例示的である) と、第一次大戦中に出現した 170 ~ 190 μ m 程度の「中期薄手用紙」が桜連合 4 銭支那字入葉書に存在する。用紙の厚さは僅かの差であるが、慣れれば用紙の腰の柔らかさで概ね分類が可能である。「初期厚手用紙」と「中期薄手用紙」の残存数差は未済とも相当にあるものの、評価はカタログ上での注記程度に留めておいてもそう問題はない。

桜連合 4 銭支那字入葉書の文字位置差異と用紙の組合せは、Type I は初期厚手用紙 (210 ~ 220 μ m) と中期薄手用紙 (170 ~ 190 μ m) の両方に存在するが、Type II は初期厚手用紙しか見つかっていない。先述のように調査サンプル数は決して多くないものの、現状では加刷文字位置違いと用紙の組合せは 3 種類に“確定”しても間違いはないと考える。

表 用紙の違いと加刷文字位置違いの組合せ

用紙区分	初期厚手用紙 (210 ~ 220 μ m厚)	中期薄手用紙 (170 ~ 190 μ m厚)
「支那」加刷文字 位置	Type I	Type I
	Type II	存在なし(と思われる)

註：(1) 使用済残存数の多寡による判断。未使用でも同様の傾向はあるが、多寡の差は若干程度縮小する。

(2) 島田健造「中国使用の青分銅葉書の分類」『フィラテリスト』15巻10号(1983年10月)日本郵趣協会

考古学絵葉書の歴史とその使用方法について

平田 健

明治末期から製作された「考古学絵葉書」について、日本考古学史を専門とする筆者に、その変遷と魅力の一端を解説していただきます。(編)

はじめに

考古学絵葉書と聞いて、具体的な絵葉書をイメージできる人はまずいないだろう。催事で時々目にする埼玉県吉見百穴や、福岡県大宰府政庁跡の礎石が写された、見栄えのしない絵葉書がそれである。これら絵葉書がその存在すら知られずにいるのは、博物館などを除き発行部数が100部程度と私家版に近いことが一因として挙げられる。否、絵葉書の花形である美人や、ノスタルジックな街並みを手元に再現してくれる風景・名所絵葉書のような魅力に乏しいことが何よりの理由であろうことは、収集・研究している筆者自身が一番自覚しているところである。

改めて考古学絵葉書とは何か。筆者は、「絵画面に印刷された被写体が出土遺物や遺跡などで、製作や出版の過程で考古学者が直接的または間接的に関与した絵葉書」¹⁾と定義している。昭和20年(1945)までに発行された考古学絵葉書のうち、平成31年(2019)2月までに確認しているのは932組4,519葉であり、決して少ない数ではない。本稿では、明治末から大正期にかけて考古学絵葉書の普及に尽力した研究者を紹介し、その特殊な使用方法を明らかにすることで、考古学絵葉書に潜む魅力^{ちみ}を闡明していきたい。

1 考古学・人類学研究への絵葉書の導入

国内最初の考古学絵葉書は、明治38年(1905)頃に発行された『石器時代紋様繪端書』(6葉一組、如山堂書店)である。これまで未確認であったが、近年の調査でようやく1葉の同定に至った。図1(東京大学大学院情報学環所蔵)は本誌が初公開。石版刷りで、絵画面上半に青線で描いた上沼部貝塚出土土版の石膏模型を交差させて配し、余白には白銀色を引く。図案は、東京帝国大学理科大学人類学教室の画工であった大野延太郎(1863-1938)による。縄文土器の文様を図案化するなど、デザイナーとしても活躍していた大野延太郎ならではの着想といえよう。

ところで、図1は大野延太郎が坪井正五郎に宛てた絵葉書である。坪井正五郎(1863-1913)は東京帝国大学理科大学人類学教室を主宰し、現在の考古学や民族学などを横断する「人類学」を提唱、東京人類学会など研究体制を全国的に組織した。また、三越呉服店内に設置された流行会や児童用品研究会に参画し、玩具開発を指導している。日本葉書会の名誉賛助員にも就任、機関誌『ハガキ文学』などを通じて絵葉書の普及を推進した。

絵葉書を考古学や人類学研究に導入したのも坪井正五郎である。諸人種の容貌体格、風俗の写真画像を入手する手段として積極的に活用した坪井正五郎は、人類学教室の調査で撮影されたアイヌなどの先住民族や、帝国版図内の民族に関する写真原版を用いて『人類學繪はかき』(明治39年、明治41年頃)を出版している。発掘調査風景や出土遺物などを逸早く絵葉書に仕立てて販売したのも、恐らくは坪井正五郎のアイデアであった。



図1 『石器時代紋様繪端書』



図2 「中古に於ける凱旋式」第二案写真

中央の大將が高橋健自



図3 「武装男子埴輪土偶」絵葉書

2 考古学研究のための絵葉書へ

考古学絵葉書の体裁に秩序を与え、研究資料へと昇華させたのは東京帝室博物館学芸委員であった高橋健自(1871-1929)である。有職故実にも精通し、大札紀念切手(大正4年)や第一回国勢調査紀念切手(大正9年)などの意匠図案審査会委員を務めたことでも知られる。『明治三十七八年戦役 陸軍凱旋觀兵式紀念繪葉書』(乙之部)の「中古に於ける凱旋式」では、図案用の写真撮影のため自ら鎧を纏って主将に扮する(図2)²⁾など、時代や風俗に関する考証には極めて厳格な態度で臨んだ。

東京帝室博物館や神宮徴古館など、博物館収蔵資料の絵葉書を製作・販売したのも高橋健自である。考古学絵葉書では、東京帝室博物館発行『歴史繪はがき』上古遺物號(大正14年〜)が5葉一組で全37号、下野史談会発行『下野考古資料』絵葉書(大正8年)が50葉一組など、大部な絵葉書集を手掛けている。

高橋健自編集の絵葉書を見てみよう。図3は『歴史繪はがき』上古遺物號(其廿一)のうち、群馬県新田郡世良田出土の挂甲武人埴輪である。絵葉書の画面を分割し、右側に正面、左側に背面と埴輪の写真を展開する。上段には遺物名と出土地、下段には所蔵者名、下段左には縦書きで「高一三九糎」と寸法が記載されている。多面的な写真を掲載することで、遺物の三次元情報を二次元の絵葉書に記録することに成功している。そして、出土地や寸法など考古学者が必要とする情報が印字されたことで、研究カードとしての体裁が整えられたのであった。

3 考古学絵葉書の使用

考古学絵葉書の大半は、研究者個人や学会など研究組織が製作・販売しており、博物館などで販売されていたものを除き一般の人が入手する機会はほとんどなかった。そのため、実通便の多くが考古学者同士の遣り取りである。このほかの用途として、講義や研究会の参考資料として製作されたものがある。東京美術学校で考古学や美術史を講じていた高橋健自は、『歴史繪はがき』上古遺物號をベースにした講義資料用の絵葉書を製作していた。コロタイプ印刷であるため画像が鮮明であること、余白が多く講義内容や所見を直接書き込むことができるなどのメリットがあった。



図4 「金銅製鉢」絵葉書

絵葉書を論文などの図版に使用した例も散見される。図4は、昭和5年(1930)考古學會第35回総会に先立ち行われた益田孝男爵所蔵品展覧会を記念した絵葉書である。朱線で枠を囲み、「2寸」とサイズを指定したのは帝室博物館鑑査官の矢島恭介(1898-1978)である。本図は展覧会記事とともに『考古學雜誌』第20巻第6号に掲載された。

おわりに

坪井正五郎によって考古学・人類学研究に導入された絵葉書は、高橋健自により研究カードとして体裁が整えられ、戦前期の考古学研究の基礎資料となった。発掘調査の概報や収集した遺物などを絵葉書に仕立て、配布することで、その情報が研究者間で共有された。絵葉書自体が定型化されていることも、収集・整理には有用であった。

研究カードや論文の原図に用いられた考古学絵葉書は、切手を貼られ世界を旅することなく、『送られない絵葉書』として研究者の書棚で永く愛蔵されていた。今日目にする機会が少ないのは、こうした特性に起因するのである。

末筆ながら、寄稿の機会を与您して頂いた相原正人氏、板橋祐己氏に御礼を申し上げます。また、大野延太郎については鈴木希帆氏、藏田愛子氏、『石器時代紋様繪端書』の画題については品川欣也氏に御教示頂きました。

【文 献】

- 1) 平田 健 編『日本考古学百景 戦前の絵葉書にみる遺跡と遺物』(吉川弘文館、2015年)
- 2) 樋畑雪湖『日本繪葉書史潮』(日本郵券俱樂部、1936年)

38円航空書簡の分類と使用例

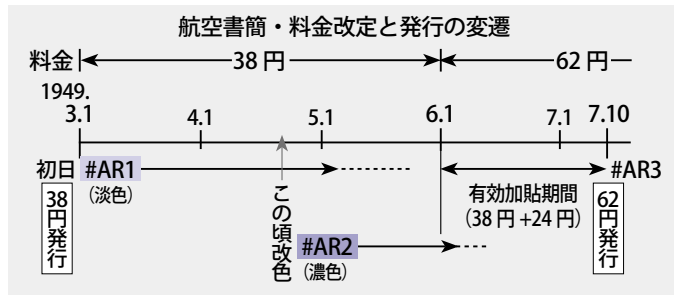
Classification and Usages of 38yen Air-Letter, 1949

魚木 五夫

1. はじめに

我が国最初の航空書簡は、1949年（昭和24）3月1日、額面38円として発行された。これは、同年の7月10日に額面62円の後継航空書簡が発行されるまで、僅か4ヵ月強の短命に終わることとなった。このため、収集家の手元には、この期間内に購入された未使用のほか、発行当初に作られた初日カバーなどが残ったが、実通された書簡のほとんどは、海外に送られたまま、長らく日本には戻ってこなかった。

発行後70年を経過した今日までに、この最初の航空書簡は、その発行量から見れば僅かではあるが、日本に戻ってきている。こうした実通使用例も参照しながら、この航空書簡について、意外に注目されなかった問題点を指摘しておきたい。



2. 第1次印刷 (#AR1)

38円航空書簡として最初に発売されたものは、印面が青色、地紋が淡青緑色で刷られていた。カタログでは特に記述していないが、書簡の周辺に印刷された平行四辺形模様は、青色とだいたい色の2色になっていた。

収集家や切手商は、初日にこれをまとめて購入し、その幾らかは窓口で初日印の押捺を依頼し、非実通の初日カバーが作られた。一方、日本郵趣協会（JPS）の名称で差出された、初日カバーは、米国ニューヨーク局留置として、東回りと西回りがそれぞれ十通程度作られたと、故水原明窗氏は証言していた。この東回り便（図1）には“Via Eastern”、また西回り便（図2）には“Via Western”の文字が、それぞれ赤色のゴム印で押捺されている。

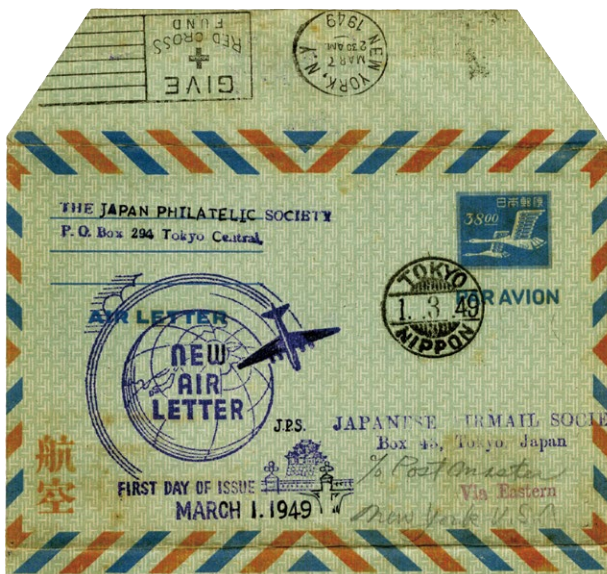


図1（左・Via Eastern）、図2（右・Via Western）FDC
いずれも実通された初日カバーの例。航空書簡の表面記載

事項や押捺印影はこれらと同じでも、裏面にニューヨーク局の到着印が無いものは、実通と証明できないので要注意。

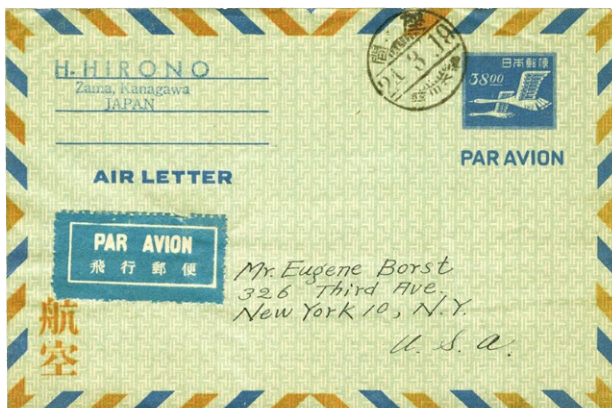


図3 AR1 3月中の実通使用例。この例は神奈川・座間局から、3月19日ニューヨーク宛てのもの。文面もある。

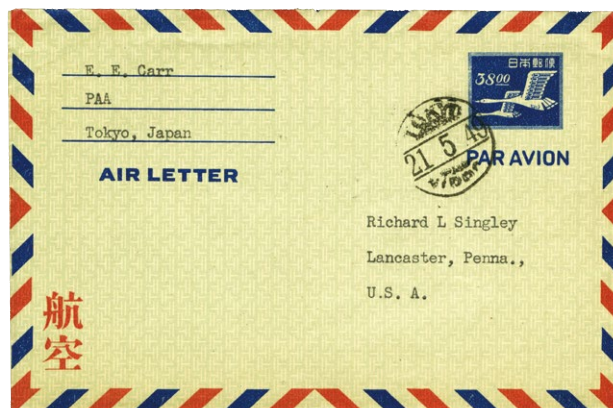


図4 AR2 5月中の実通使用例。東京中央局から5月21日に、米国ペンシルバニア州ランカスター局宛て(裏表紙参照)。

現在残っているこれら初日実通便の、米国ニューヨーク局到着日付を観察すると、

西回り便……3月6日、又は3月7日

東回り便……3月7日

のそれぞれ機械印が裏面に押捺されている。なお実通のものでも、この到着印が押捺されていないものもある。

また、この航空書簡に通信文を記載し、明らかに実通されたと見られる例は、決して多くは回収されていない。特に3月中のこうした実通使用例で、収集家に保存されている例は少ない(図3)。

なお、この第1次印刷書簡の発売枚数は、通信省の発表から推定すると、20万枚だったと考えられる。



AR1(左)とAR2(右)の刷色の違い 2種の印面付近を拡大して示すと、印刷2色と地紋色の違いが歴然と分かる。

3. 第2次印刷(#AR2)

最初の書簡は、例えば発行当時の米国あて航空書状料金が、最低61円(=書状料金16円+航空増し料金45円)であったことを考えると、かなり安価な印象を与えた。そのためか、郵便局のストックは予想以上の速さで売り切れ、4月下旬には、追加印刷のものが予告なしに窓口に現れるようになった。これは、第1次印刷分に比べて、印面の刷色が濃青色となり、書簡の周辺に印刷された平行四辺形模様は赤色となった。また地紋の刷色は淡灰緑となって、コントラストが高まった。専門カタログでAR2としてリストされているのが、この第2次印刷分である(図4)。

これは、第1次印刷分(#AR1)が売り切れ次第発売されたので、その発売日は郵便局により異なっていた。これがいつ最初に発売されたかは、ハッキリしないが、4月下旬と推定されている。その内、実際に郵便に使用されたものの大多数は、米国宛てに送られたものと推定されるが、米国の収集家もすぐこの新種に気付き、当時の郵趣誌上に、新種として報告されている。

第2次印刷分は、このように予告なしに出現したので、これを入手した収集家や切手商



図5 AR2を用いた二せ初日カバー 実通のように見せかけているが、非実通なのでかえって不自然さが目立つ。



図6 62円料金時代のAR1加貼使用例。郵便便で通信文は無いが、1949年6月26日の東京中央局欧文印による引受け例で、差出人が手持ちのAR1に加貼したものだろう。



図7 62円料金時代のAR2加貼使用例。図6と同じ差出人が、恐らく手持ちのAR2に、6月1日発行の新切手などを貼り、6月11日に東京中央局から米国に宛てた郵便便。

の中には、見せかけの初日カバーを作ろうとした人が居たようである。その結果、東京中央郵便局の外国郵便窓口で、外信用櫛型日付印の日付を故意に変更させ、3月1日という日付のニセ初日カバーが多数作られたらしい(前ページ図5)。これはその後市場に広く出回ったので、事情を知らない収集家は、3月1日に2種類の色調の異なる書簡が発売されたと、信じる結果になってしまった。この事実は、当時米国の日本切手研究会(ISJP)で活躍していた、東京在住の故スポールディング氏によって指摘され、詳細な事情は同会の機関誌にも報告されている【文献2】。

なお、この第2次印刷の発売数量は、通信省の発売記録から見ると17万枚と考えられ、第1次印刷のものより少なかったことが分かる。

非実通の「初日カバー」がニセ物となると、当然実通の書簡が重要になる。しかし、38円書簡そのものの実通便が全体的に少ないのだから、この第2次印刷がより少ないのは当然とも言える。

更に困ったことに、この年の6月1日には、国際郵便料金の改正が行われ、航空書簡も従来の38円から62円へ、大幅な値上げが実施された。このため、第2次印刷の書簡は意外に短命のものとなった。そして、次項で述べる加貼使用の例を加えても、発行された全数の内、売れ残ったものもあると考えられるので、17万枚より少ない発売数にとどまったとも想像される。

4. 料金値上げ後の加貼使用

1949年6月1日の新料金施行後は、新額面の航空書簡発行が間に合わなかったため、郵便局では在庫の38円書簡に窓口で在庫の24円分の切手を加貼し、62円で発売することとなった。この時点で在庫の38円航空書簡は、ほとんどが第2次印刷分(#AR2)だったと考えられる。そこで、窓口売りされた加貼書簡は、第2次印刷分である確率が極めて高い。また、利用者側の手元にストックされていて、24円を加貼したものは、第1次印刷分(#AR1)が多い。

この時期に、額面24円という普通切手は、まだ発行されていないので、郵便局で加貼した書簡は、大部分がすかし無しの20円「植林」と4円「かり」の組合せとなっていた(図6、7)。

いずれにしても、6月1日から62円書簡発行の7月10日までの期間は、加貼書簡だけが有効という、我が国の郵便ステーションナリーとしては、余り例の無い状態にあった。そこでこの期間に限った、実通の加貼航空書簡を探してみると、これまた相当に少ないことが分かる(図8)。

ついでながら、先進諸国の郵便ステーションナリー収集家の間では、料金を加貼したものは、こうした「新料金の後継種類」が発行されるまでの間だけが、有効期間と考えられている。このことは、国際切手展の出品規則にも反映されているが、JAPEX規則では、これが忠実に表現されていない。



図8 62円料金時期初日のAR2加貼使用例。荒井国太郎氏からハワイの河村照道氏に宛てた実郵便。さすがに、文面で意図的に差出されたことが示され、フラップも無傷で開封されている(裏表紙参照)。

5. 時期外れの加貼使用

これまで、多くの収集家が興味を示してきた、38円航空書簡の24円加貼使用例は、そのほとんどが62円書簡発行後のものである。従ってこれらは、郵便史の材料ならいざ知らず、郵便ステーションナリーとしては、面白くない材料と言える。この種のものの典型的な例は、

平等院鳳凰堂 24円切手

第1次富士箱根以降の国立公園 24円切手

観光地百選の24円切手

などを加貼したものである。これらの評価には、加貼された切手の使用済評価が加わると、思い込む人が多いのだが、実はそうでない。郵趣家による「後使い」の証明になっているだけで、国際的な常識では、本質的な評価には結びつかないことに、注意する必要がある。

6. 実通使用例の問題点

航空書簡の実通使用例は、まず第一に妥当な通信文の記載が必要である。ドイツ・ミッヘル・ステーションナリー・カタログなどは、通信文の有無でステーションナリーの評価を区別し、通信文の無いものは、かなり低く評価している。

また、この時代には、ほぼすべての国が到着印を省略しているため、実通であることを直接的に証明するのは難しい。転送・紛来・還付・検閲などで、偶然外国の郵便印が押捺されている、むしろ異常な例でのみ、実通が証明できるという問題点もある。

また、実際の使用例の場合には、ほとんどの受取人がフラップを切断して開封しているため、状態として不完全なものが多いことも、収集上では問題となっている。

7. まとめ

以上説明してきたように38円航空書簡には、窓口での発売期間により次の3種類がある。

- (1) 第1次印刷分 1949年3月1日から約2ヵ月間発売
- (2) 第2次印刷分 1949年4月下旬頃から5月末まで発売
- (3) 24円切手加貼発売分 1949年6月1日以降発売

もちろんこうした発売事情は、各郵便局により差があるが、収集家としてはこれを読み入れた、五体満足で適切な通信文の記入がある、実通使用例を確保する必要がある。

【参考文献】

1. 魚木 五夫、「航空書簡」、関西郵趣、48号(1953)、pp.4-5.
2. R.M.Spaulding, "Japanese Aerogrammes", I.S.J.P., Vol.X, pp.201~206.

フレーム切手のマイクロ文字

内田 雄二

本稿では、フレーム切手のフレーム部分、中央のユーザーが自由にデザインできる部分ではなく、日本郵便株式会社(正確には日本郵政公社以降)がデザインした部分にスポットを当てています。まだ調査途中ですが、現状で分かったことについて報告させていただきます。

1. はじめに

JAPEX2018で掲題のタイトルで2006年以降に発行された切手のみを使用して、無謀にも「伝統郵趣」としてワンフレームクラスに出品しました。個人的には銅賞で十分と思っていたのですが銀銅賞を受賞、更に審査員賞詞という特別賞までいただきました。

フレーム切手について調べてゆく過程で、奥深い可能性を秘めた切手であることが分かりました。

- ① カタログより更に分類ができる
- ② マイクロ文字列が2種類(細かくは3種類)あるが郵便事業主体法人の変更にリンクしている
⇒ 郵便史として郵政民営化をテーマにした場合必須アイテムとなりえる
- ③ フレーム枠とマイクロ文字の組み合わせによって、発行枚数の少ないものがある
- ④ その使用例の入手は難しいものが存在する

現行の切手で印刷技術の向上によって、バラエティーは現状では見いだせませんが、50年100年150年先に調査するより今のうちに研究を進めておく事が大切と考えました。

2. フレーム枠の違い

筆者は15年ほど前から使用済切手(キロボックス)を購入して整理していました。フレーム切手は枠の中にあるデザインで分類していましたが、フレーム切手外枠の太さに違いがある事は分かっていました(図1、2)。

この時点ではマイクロ文字のあることや太さの違いの理由はわかりませんでした。

上記の違いについては未使用切手シートではわかりづらく、カタログへの記載もありません。

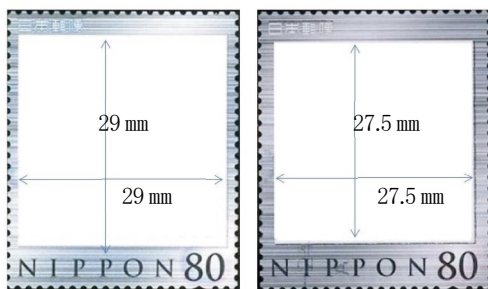


図1 フレーム外枠、太さの違い(シルバー)

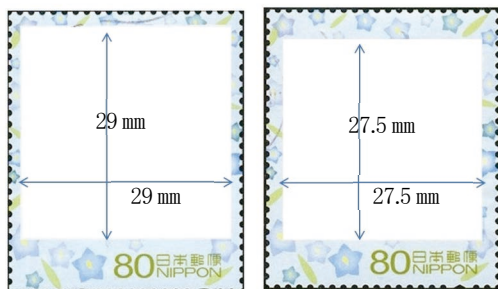


図2 フレーム外枠、太さの違い(水色・黄色は省略)

3. マイクロ文字列について

2014年の春に「日本郵便」の下にアンダーラインのようなものがある事を発見、拡大するとマイクロ文字が入っていました(図3)。残念ながら新発見でなくて、マイクロ文字については



図3 マイクロ文字列の発見

「郵趣ウイークリー」2007年48号にて掲載済みでした。

記事によると2007年11月以降、「JAPAN POST」から「JAPANPOSTSERVICECo.,Ltd.」に変更になった事を報じています。ただし変更理由については言及していません。

マイクロ文字列が変更された理由について着目したのは「JAPANPOSTSERVICECo.,Ltd.」です。会社名の英文表記だと分かります。さっそく郵便事業主体企業の英文表記を調査してみました。

郵政省	Ministry of Posts and Telecommunications (~2001.1.5)
郵政事業庁	Postal Services Agency (2001.1.6~2003.3.31)
日本郵政公社	Japan Post (2003.4.1~2007.9.30)
日本郵政株式会社	Japan Post Holdings Co.,Ltd. (2007.10.1~)
郵便局株式会社	Japan Post Network Co.,Ltd. (2007.10.1~2012.9.30)
郵便事業株式会社	Japan Post Service Co.,Ltd. (2007.10.1~2012.9.30)
日本郵便株式会社(局会社と事業会社が合併)	Japan Post Co.,Ltd. (2012.10.1~)

すぐに分かりました、2007年10月1日に、それまでの日本郵政公社(Japan Post)から郵便事業株式会社(Japan Post Service Co.,Ltd.)に変更になっています。

郵便事業を行っていた日本郵政公社が分割民営化され郵便事業株式会社になった事で、当時発行されていたフレーム切手(フラワー枠とシルバー枠)のマイクロ文字列も変更になりました。

フラワー枠の(水色・黄色)とシルバー枠は、枠の細い方が「JAPAN POST」と入っていますので、日本郵政公社時代に発行された初期の切手と分類できます(図4)。また、枠の太い方は「JAPANPOSTSERVICECo.,Ltd.」なので、郵便事業会社になって発行された後期の切手になります(図5)。

また、フラワー枠(水色・黄色)の文字列は「JAPAN POS ㊦」という表記です。そして、文字列が変更になった時からマイクロ文字の場所が変わりました(図6)。



図4 JAPAN POST

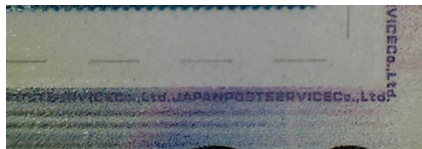


図5 JAPANPOSTSERVICECo.,Ltd.



図6 フラワー枠(黄色・水色) 文字列と文字の場所が変更された

4. 50円グリーン枠と80円ブルー枠の発行

フレーム切手のフラワー枠とシルバー枠の切手に次いで、2007年11月1日から50円グリーン枠と80円ブルー枠が追加になりました。この2種類の切手は、2014年4月の郵便料金改定(封書料金80円→82円)直前の3月9日まで発行されました。

50円グリーン枠と80円ブルー枠の発行当初は郵便事業



図7 50円グリーン枠のマイクロ文字

株式会社でしたので、マイクロ文字はすべて「JAPANPOSTSERVICECo.,Ltd.」です(図7)。

2012年10月から郵便事業会社と郵便局会社が合併して、日本郵便株式会社(Japan Post Co.,Ltd.)に変更になりました。ところがマイクロ文字列は変更されず依然として「JAPANPOSTSERVICECo.,Ltd.」が使用されていました。変更されなかった理由について、商業登記上は郵便事業株式会社(Japan Post Service Co.,Ltd)が社名変更して日本郵便株式会社(Japan Post)に変わったため、以降はどちらの英文表示でも良かったものと考えます。



図8 50円グリーン「JAPAN POST」



図9 80円ブルー「JAPAN POST」

カタログ番号でPH15の大型フレーム切手
が変更の対象で、そのほかのフレーム枠は
「JAPANPOSTSERVICECo.,Ltd.」が引き続
き使用されています。

2014年4月の消費税改定により郵便料金
が変更になり、80円ブルーと「JAPAN
POST」の組み合わせは2014年3月9日ま
での約2ヵ月間の極めて短期間の発行、かつ一
部サイズのフレーム枠に留まったことから希
少なものとなりました。

このサイズの切手シートは通信販売されて
いますので正確な発行枚数は不明ですが、
日本郵便が発行したフレーム切手は次の3
点のみ、部数は合計で7,800部の発行に留
まりました。

あびこ観音 (2014.1.14 大阪府の一部 1,000部、図10)

第四十八代横綱大鵬 (2014.1.23 北海道全域と東京都の一部 1,300部)

チーバくと巡る千葉からの富士 (2014.2.3 千葉県内 5,500部)



図10 カタログ番号PH15 「JAPANPOST」のフレーム切手

5. 額面変更

2014年4月1日に消費税が5%から8%に引き上げられ、封書料金が82円になりました。料金改定となる前月の3月10日からフレーム切手のデザインが変更となり、「花」「グラデーション」「額縁」の3種類になりました。

いずれのフレームにも、日本郵便株式会社の英文表記である「JAPAN POST」のマイクロ文字が入りました(JAPANPOSTSERVICE Co.,Ltd.は廃止)。

ただし切手によってマイクロ文字の位置に違いがあります(図11①～③)。

①日本郵便の「日」の下だが少し離れた位置

②日本郵便の「日」のすぐ下

③日本郵便の「便」のすぐ下

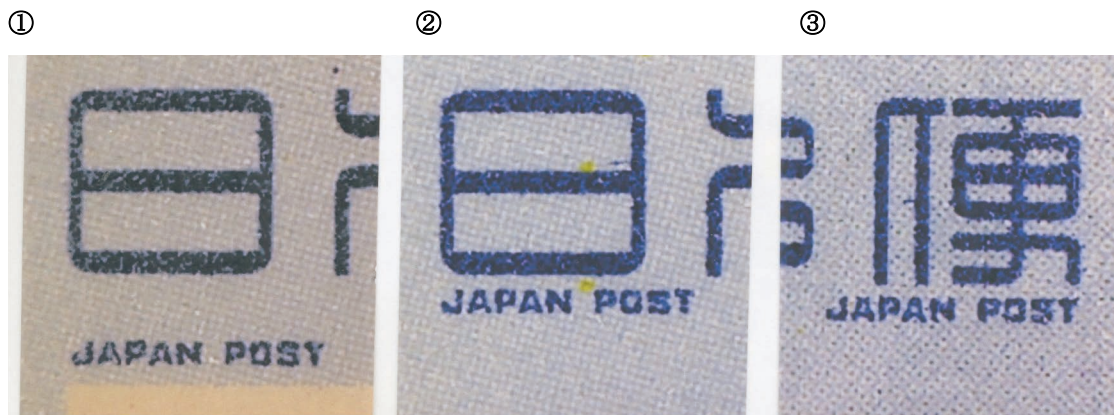


図11①～③ マイクロ文字列の位置に少しずつ違いがある

6. 92円額縁(シルバー)について

2016年7月1日から92円額面のフレーム切手が通信販売のみで発行されました(図12)。ところが、2017年6月1日のはがき料金改定(52円→62円)にあわせて、2017年4月28日申し込みをもって廃止されてしまいました。理由は需要が非常に少なかったからと考えます。

1年弱という発行期間と92円という額面でいったいどれだけの注文があったのか、その実通使用例は今から探しておく必要があると考えます。



図12 92円額縁

7. フレーム切手研究の今後

前述の「3. マイクロ文字列について」で説明した通り、フレーム切手のマイクロ文字の変遷は郵政民営化の歴史を反映したものです。郵便事業主体会社名がデザインとして入っている切手はフレーム切手のみです。2003年3月1日発行の日本郵政公社発足時のキャラクターがデザインされた切手と、2007年10月1日発行の民営会社発足記念切手などありますが、将来郵便史で郵政民営化を題材とした作品を作るうえでフレーム切手は必須の材料になるものと確信しております。

また、前述しておりますが特に希少な使用例として、80円ブルーと「JAPAN POST」の組み合わせ、及び通信販売のみで約1年で廃止になった額面92円切手の実通使用カバーの入手は、かなり困難なものではないかと推測します。

今回はフレーム切手に入っているマイクロ文字だけに絞りましたが、①パールインクを利用した隠しデザイン、②切手シート周囲のデザイン、③切手シートが封入されている袋、などは今後の研究対象となるでしょう。

戦後ステーションナリーは使用済が面白い

本誌連載でもおなじみ、天野安治さんの「戦後の郵便料金改訂とステーションナリー使用例収集」が、採録範囲を大幅に拡充した全編書き下ろしの郵趣モノグラフとして刊行されます。天野さんに戦後ステーションナリー使用例収集の面白さを語っていただきます。(編)

天野 安治

◆ 度重なる郵便料金値上げと短い適正使用期間

図1をみて下さい。一見、1次新昭和塔30銭、1枚貼りの封書のように見えますが、実は30銭切手付き封筒の印面部分を切り抜いて、別の封筒に貼って使用した、たいへん珍しい使用例です。この切手付封筒の売価は料額面より高い40銭、そのため料額印面の部分を無目打切手のように切り抜いて、別の封筒に貼って使うことができました。図1はその切り抜き使用例ですが、たいへん珍しいものです。

ステーションナリーの中には、このような使い方をされたものがあり、これらはぜひ収集に加えたいものです。

さらに、この30銭切手付き封筒は、1947年(昭和22)2月15日の発行ですが、その1ヵ月半後の4月1日には、第1種料金が30銭から1円20銭に値上げされました。その結果、この封筒の単独適正使用期間は1ヵ月半と短く、使用例としてたいへん少ないものとなります。

そのような訳で、図1の印面切り抜きの単独使用例は、二重の稀少性を持った使用例ということになります。

次に、図2は1947年4月15日発行の外信用50銭往復はがきですが、同年4月1日から、外信用はがき料金は50銭から2円になっていて、この50銭はがきは、最初から1円50銭切手を加貼して使用されました。

終戦直後の日本は、生活物資の不足からインフレーションに襲われ、郵便料金の値上げが度たびありましたが、そのたびに、新料金用の郵便切手やステーションナリーの発行は遅れたり間に合わなかったりして、適正使用期間の短い切手、ステーションナリーが数多く存在しています。これら少ない実用使用例を揃えていく

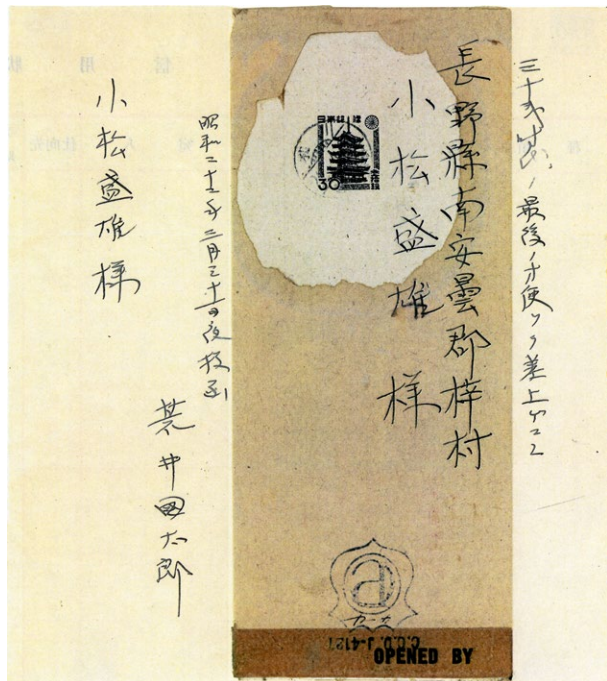
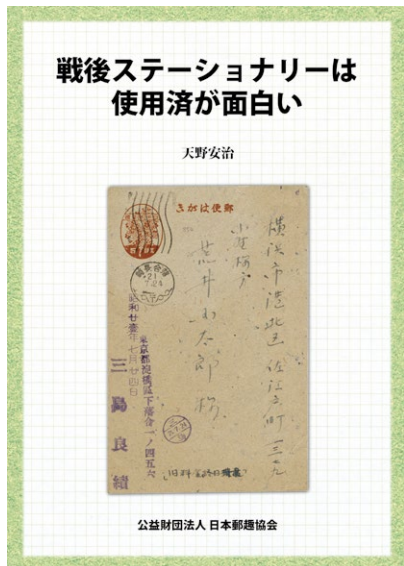
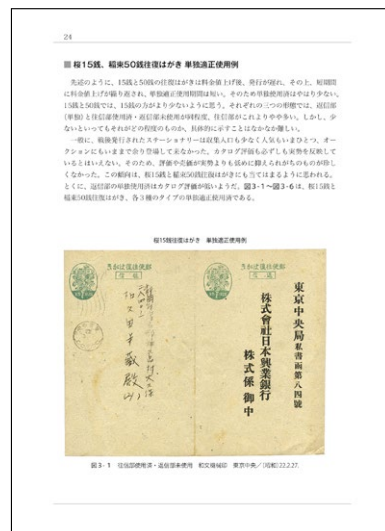


図1 30銭切手付き封筒の切り抜き、単独適正使用例 川和/昭和22(1947). 4.1. 30銭料金最終日(3.31)に投函、新料金初日(4.1)の日付印を押して差立。



図2 外信用50銭往復はがき、郵便75年 50銭、1円加貼、返信部未使用 藤原/昭和23(1948).6.15.



本文ページより [左] 戦後最初の普通はがき・桜5銭の単独使用例。適正使用期間はわずか5日間。[中] 桜15銭、稲束50銭はがきの朝鮮半島/台湾宛て、特別料金の使用例。[右] 桜15銭往復はがきの単独適正使用例、返信部未使用。単葉よりはるかに少ない。

ことが、収集の醍醐味といえるでしょう。

◆ 特殊で限られた使用例

図3は小包はがき3円に「3円収納」印を押して、6円小包はがきとして発行されたものの使用例です。3円小包はがきは1951年(昭和26)6月1日に発行されました。しかし、同じ年の11月1日の料金値上げにより小包はがき料金は6円となり、図3のような3円収納印押捺の6円はがきの登場となりました。額面6円の夢殿小包はがきの発行は、遅れて1964年(昭和39)5月1日になります。

小包はがきは、せっかく発行されてもあまり使用されず、適正使用期間の短い3円はもちろん、3円収納印を押した6円も、残されている使用例は少ないように思います。これを揃えるのは難しいだけに面白く、やり甲斐のある収集となりますが、あまり集められていないのが実情です。



図3 小包はがき3円へ「3円収納」印を押捺した6円はがき 高粱 / 3円収納 岡山玉川 / 昭和28(1953).1.7.



図4 物品保険扱い便 名古屋屋通信展小型シート(10円)、国土緑化1円20銭貼(物品保険料500円まで10円、第1種便1円20銭) 長野梓 / 昭和22(1947).4.6. 戦後物品保険扱いの使用例はこの1点のみ

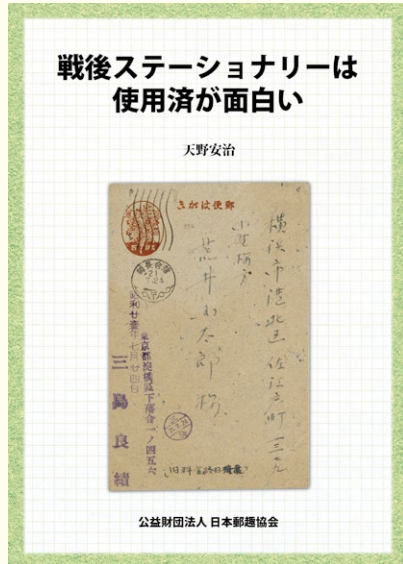
あまり集められていない、といえ、図4の物品保険扱い郵便カバーなども、ほとんど知られていない使用例のひとつでしょう。これと並行して展開された通貨保険扱いも含めて見ていく必要がありますが、封筒の変遷と郵便料金のそれを絡めた収集は、切手展でも見たことがありません。

本書では、度重なる戦後の郵便料金の値上げを柱にして、それに対応して発行、使用されたステーショナリーを絡めて、多彩な使用例を取り上げ、解説を加えてみました。郵便物として運送されたステーショナリーの多彩な使用例、その収集の面白さを知っていただければ幸いです。

戦後ステーションナリー、初の解説書！

天野安治・著「戦後ステーションナリーは使用済が面白い」

●お申し込みは、本誌前号同封の振替用紙で！



集めて面白い戦後の使用済を中心に！

戦後の混乱の中から、最初の郵便ステーションナリー桜花5銭が発行されて以来、今日まで数多くのステーションナリーが発行されてきた。しかし、その使用例についての解説書は、刊行されていない。

戦後ステーションナリーの使用済は、郵便の種類と料金のからみからくる、多様な加貼使用例が見られる。これらを織り混ぜた収集は、厚味のある面白いものになってくる。

しかし、そのすべてを採録するのは難しい。その中で、集めて面白いのは戦後しばらくの発行だが、本書での採録範囲は分野によって異なり、筆者の判断で決めている。本書が刺激となって、戦後ステーションナリーに対する関心が集まれば幸いである。(天野安治)



[収録分野とその内容]

- 普通はがき：適正使用、値上げ差額加貼、同収納印付き、特殊取扱、外信使用、少ない消印
- 往復はがき：3つの基本型、返信部の少なさ
- 記念・特殊はがき：適正使用、値上げ差額加貼、同収納印付き、特殊取扱、外信使用
- 年賀はがき・暑中見舞いはがき：適正使用(年賀、暑中見舞)、1円加貼
- 切手付き封筒・レターシート：適正使用、値上げ差額加貼、特殊取扱、外信使用、印面切り抜き
- 小包はがき：適正使用、値上げ差額加重、同収納印付き
- 外信用はがき・普通：適正使用、値上げ差額加貼、航空便
- 往復：3つの基本型、返信部の少なさ
- 航空書簡：適正使用、値上げ差額加貼、値下げ加貼
- 価格表記一通貨保険扱いー現金書留：制度、料金、封筒の変遷の組み合わせ
- 書留封筒：書留料金との組み合わせ

▶ B5判・並製 128頁[※] (オールカラー)
 ●ご予約価格(いずれも税込) 荷造送料 430円
 維持・正会員：3,456円 (3,200円+税)
 普通会員・一般：3,672円 (3,400円+税)
 定 価：3,888円 (3,600円+税)

予約締切：7月20日(土)
 [当日消印有効]

*表紙図版及びページ数は、現在制作中のため変更となる場合があります。

郵趣モノグラフ27

好評発売中!!

切手コレクションリーフ制作ハンドブック

全国切手展 JAPEX ルールブック準拠

榎沢祐一・著

JAPEXへの出品コレクションリーフの作り方を、「全国切手展JAPEXルールブック」を基に解説！リーフ作りの向上を目指す全収集家にお勧めです。

「日本国際切手展2021(仮称)」
 出品に向けての、必読本です！

- (公財)日本郵趣協会刊
- (公財)日本郵趣協会 審査委員会 監修
- 2018年10月10日発行
- B5判・並製/カラー96ページ

定 価 3,780円 (税込) 荷造送料 430円



【お問い合わせ先】公益財団法人 日本郵趣協会 TEL: 03-5951-3311 FAX: 03-5951-3315 メール: info@yushu.or.jp

JPSオークション・プレビュー (60)

2019年7月6日(土) 14:30～ 第522回より 山口 充

当コラムでは直近のJPSオークションに出品されるマテリアルから、注目の品を選んで紹介します。(編)



◆旧大正毛紙30銭の単線12目打未使用

筆者が田沢切手の収集を始めたころに愛読していた天野安治先生の『日本切手とその集め方』(日本郵趣出版、1976年)を紐解くと、旧大正毛紙切手の目打に関して「(単線12目打の)6銭、30銭は1～2枚の発見で、まだ珍目打として正式の市民権をえていません」との記述がある。当時は、旧大正毛紙の第二次発行の4額面(6銭・8銭・30銭・50銭)の、櫛型12×12½目打の使用済を揃えている収集家さえ全国で数人しかおらず、8銭以外の単線12目打に至ってはほとんど幻の存在であった。少し努力すれば4額面の櫛型12×12½目打の使用済を揃えられる現在とは、まさに隔世の感がある。

それはともかく、現在では30銭の単線12目打の使用済はある程度発掘されており、台湾の据置貯金台紙に貼られた使用例も複数知られている。また、未使用もTC&S(トマス・クック父子商会)の穿孔が施されたものが知られているが、穿孔入りの未使用では満足できないという方もいるだろう。

本品はその30銭の単線12目打の未使用である。リガム?の記述がある裏面の画像も示したが、マージンとセンターは悪くない。興味のある方は必ず下見をして、納得の上でご入札いただきたい。



第522回

JPSオークション

下見会 6月29日(土) 14:30～17:30
フロアの部 7月6日(土) 14:30～17:30 (13:30～14:20まで下見可)
会場 いずれも切手の博物館3階会議室

第522回カタログは6月中旬発行 1部500円(税・送料込)



出品募集中

JPSオークションでは、随時出品物を募集しております。出品分野は、日本および関連地域の郵趣品、中国切手です。ご出品をご希望の方は、出品用紙をお送りいたしますので、下記お問い合わせ先までご請求ください。

今後の「JPSオークション」開催スケジュール

回数	開催日時(メールは締切日)	会場	下見会
第523回★	9月17日(火) 正午締切	—	9月7日(土)
第524回	11月16日(土) 13:00～	都立産業貿易センター台東館	11月9日(土)
第525回	2020年1月18日(土)13:00～	目白・切手の博物館	1月11日(土)
第526回★	3月17日(火) 正午締切	—	3月7日(土)

※印はメールオークションです。フロア(公開入札)はありません。

※下見会会場は、いずれも目白・切手の博物館3階会議室です(14:30～17:30)。

※予定は変更になる場合があります。

最新情報はホームページで! [JPSオークション](#)

オークションカタログ購読料のご案内 年6回(税・送料込) 2,400円(JPS終身・維持・正会員 2,000円)

【お問い合わせ先】公益財団法人日本郵趣協会事務局 TEL: 03-5951-3311 FAX: 03-5951-3315 メール: auc@yushu.or.jp

全日展2019 [7/13▶7/15 すみだ産業会館8階]



小林スタンプ商会



〒121-0822 東京都足立区西竹の塚2-4-48
郵便振替：00170-7-124451 ぼるる：10130-63623041
みずほ銀行足立支店(普)1369564 名義人「小林信博」

切手の博物館 1階 《ミュージアム・ショップ》

特価期間：6月25日(火)～7月31日(水)

世界の切手6万種を見てその場で買える

ご提供数
各1組

〈日本〉題字付き 記念切手ブロック 未使用



1



2

カタログ番号	発行年	切手名称	状態	ご提供数	特価(税込)
① C152	1949	日本貿易博覧会 4枚ブロック	やけています	(1)	800円
② C253	1956	第23回世界卓球選手権大会 4枚ブロック	糊シワが散見されます	(1)	800円

〈お客様へお願い〉

- ※今回ご提供数は、各1組限りです。売切れの際はご容赦ください。
- ※店頭にて先着順に販売させていただきます。
- ※特価品ですので、店頭で充分にご確認のうえお買い求めいただくようお願いいたします。
- ※組数限定品ですので、ご購入後の返品、交換はご容赦ください。
- ※通信によるご注文、販売はお受けしておりません。
- ※手段によらず、ご予約、お取り置きは承りませんのでご了承ください。
- ※各種切手データは、『さくら日本切手カタログ2020』に掲載します。

好評継続開催中!
外国切手一部
50% OFF
ご来店
感謝セール

新入荷品を除く外国一般未使用切手(指定品のみ)を、表記価格から50%割引にて販売しています。ぜひこの機会をお見逃しなくご利用ください。
※特価品につき返品・交換はご容赦ください。※お求めの際は店頭にて状態をご確認ください。

ポイント2倍押し

6月26日(水)
7月：10日(水)・24日(水)
8月：14日(水)・28日(水)

6月29日(土)～6月30日(日)・7月20日(土)～7月21日(日)

切手バザール時の特別提供品のご案内

各2日間限りの“お買い得”郵便用品をご用意いたします。
※お詫び：お徳用ストックリフは発売元からの供給が不足しているため、品薄の状況が続いております。予めご了承くださいませようございました。

〒171-0031 豊島区目白1-4-23 切手の博物館1階

TEL 03-5951-3450

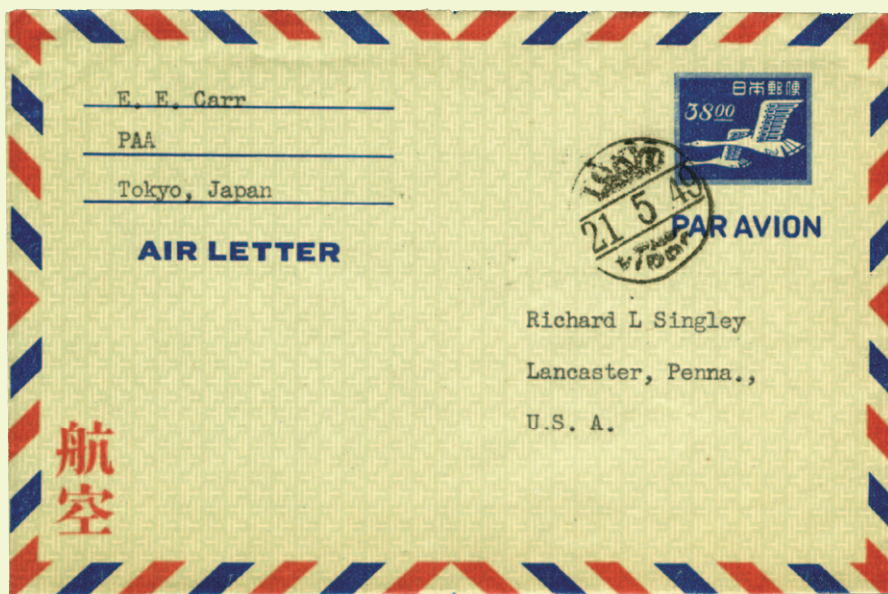
営業時間/10:30～17:00

切手の博物館 ミュージアム・ショップ

(受付時間/10:30～12:00、14:00～17:00)

月曜定休





第2次印刷 (AR2) 5月中の実通使用例
東京中央 1949.5.21. 差出、米国ペンシルバニア州ランカスター宛 [80%縮小]



第2次印刷 (AR2) 62円料金時期初日 (1949.6.1) の加貼使用例。荒井国太郎氏からハワイの河村照道氏に宛てた実通便。
フラップも無傷で開封されている [80%縮小]

「航空書簡発行70周年 38円航空書簡の分類と使用例」より [本文20ページ]